1輪増えると世界が変わる！

●今回キャンプ試乗に挑戦したマスダケイコ・ニキ親子。普段はMT-07で親子キャンプしていて、サイドカーは今回が初挑戦

ハンターカブのサイドカー！

Uediで親子キャンプに行ってみたら……

なかなか増える機会の少ないサイドカー。大型車をベースとすることが多そうだが、何と125ccのCT125・ハンターカブのサイドカーが登場した。果たしてどんな乗り味なのか？　そしてサイドカーの「面白さ」とはどんなものなのか？　実際に親子キャンプに連れ出して、その魅力を検証した！

親子二人で楽々キャンプ サイドカーの魅力発見！

ツーリング先で、サイドカーを見かけたことはないだろうか。特徴的な外観に思わず目を惹かれるけれど、なんだかハードルが高そう。実際大型のサイドカーは、四輪が買えるレベルの価格設定だ。面白そうだなと思っても、ちょっと手が出せないと感じている人が多いかもしれない。

そんなサイドカーの市場に彗星のように登場したのが「Ｕｅｄｉ（ウェディ）」。千葉市にあるショップ・オートスタッフ末広が開発した、ＣＴ１２５ハンターカブ専用サイドカーキットで、車両とサイドカーがセットのコンプリートモデルが約１００万円というお手頃価格。発表直後から話題になり、ぜひ乗ってみたい！という購入希望者が多数現れているらしい。

開発者である中村社長は、「サイドカーは二輪とは似て非なる別の乗り物。そして『二輪よりも近い感覚で、誰かと一緒に出かける楽しさ』を味わえます。その面白さをもっと多くの人たちに知ってもらうためには、既存の商品よりもハードルの低いエントリーモデルが必要だと思ったんです」と語る。では、中村社長の語る「サイドカーならではの面白さ」とは？

その魅力を体感すべく、普段はタンデムツーリングを楽しむ親子ライダーが、サイドカーでキャンプに出かけてみた！

バイクライフが広がる小さなサイドカー

●価格はハンターカブの新車＋サイドカーのコンプリートで103万1800円、ハンターカブ持ち込みで52万8000円（取り付け費用などは別）

●全長1.96m、全幅1.29m、全高1.85mで、カテゴリーは側車付き軽二輪（検査対象外車両）。乗車定員3人だが2人を推奨している

●サイドカー側の一輪にもブレーキは装備されており、ハンターカブ側のリヤブレーキを操作すると連動して制動がかかる。フェンダー後方に装着されたマッドガードはオプションで3600円

側車部分はアルミ製

●サイドカーの材質はアルミ製で、軽さと強度を両立。サイドカーはハンターカブの車体色と揃えるカラーリング代込。小型のウインドシールドはオプションで３万円

パーキングブレーキも完備

●リヤブレーキペダルに細工があり、追加のレバーを操作するとペダルが押されてリヤブレーキがかかる仕組み。駐車するときに役立つ。リヤブレーキを踏むと解除される

初めて見た時の印象は、「小さくてかわいい！」

「ウェディ」を初めて見ると、思っていた以上に小柄でかわいく感じる。左側にサイドカーがあるので、またがった時に足をついて支えなくていい。普段バイクに乗り慣れているとちょっと新鮮だ。

次にサイドカーにも座ってみた。足を伸ばして座れるし、着座時の視点も低く、タンデムとはまた違う世界が楽しめそうだ。車体は小柄でも、細部の仕上げに妥協はない。ウインドシールドや停止時に車体を安定させるパーキングブレーキ、パッセンジャーの体重移動を助けるグリップ等の装備（一部オプション）も充実している。

ところで、ウェディについて話題になっているトピックがある。それは「排気量１２５ccなのに、高速道路が走れてしまう」ことだ。車幅１２９０㎜の車体は、登録時「軽二輪（車検なし）」の扱いとなる。ゆえに、その気になれば高速道路を走ることができるのだ。

ただしこれはあくまで「法規上はＯＫ」なだけ。もともとの車体がハンターカブなので、高い速度を維持して巡航するのは得意ではない。そう考えるとあくまで「やろうと思えばできる」レベルだと頭に入れておこう。オートスタッフ末広でも、高速走行を推奨してはいないのでご注意を。

MC_086-089_サイ カー_Uedi.indd 86-87　2022/07/21 15:32

意外と大容量のトランクスペース

●サイドカーの背もたれを前に倒すと、トランクスペースが現れる。見た目以上に積載力があり、写真のテントと２人ぶんのダウンシュラフ・マット（上写真）を入れてもまだ余裕があった（右上写真）。バイクへの積載と違って荷物を固定する必要がなく、ポイポイ放り込める気軽さがうれしい

キャンプツーリングにもぴったり！

●合皮レザーのトノカバーは8500円。側車に荷物を積んで走る場合や保管時にあると便利。キャンプ場にも持っていきたいオプションアイテムだ

キャンプにも使える余裕の収納力が魅力！

今回はＵｅｄｉのポテンシャルを確かめるため、親子でキャンプに出かけてみた。サイドカーとはいっても小柄な車体。果たして二人分のキャンプ道具が積載できるのか？と思ったが心配ご無用。サイドカーの後部にはトランクスペースがあって、外から見た目以上に荷物が入る。加えてハンターカブ側にキャンプ用の大型シートバッグを装着すれば積載力は十分。何かと荷物が増えがちな親子キャンプでも余裕が感じられるほどだった。テントの横に駐車した姿も非常に絵になるので、ぜひ車両の乗り入れが可能なオートキャンプ場を利用したい。めずらしい車体だからか、移動中に周囲から声をかけてもらえることが多いのも、ちょっとした楽しみになるかも。

ちなみに、パッセンジャーを務めた子供は「タンデムより疲れないし面白い」と上機嫌。体を車体にホールドする必要がなく、足を伸ばして座っていられるので、クルマに近い気楽さがあるようだ。なお、ウェディのサイドカーは、一般的な日本人の体格なら無理なく乗車できるサイズ感。今回は親子で試乗したが、二輪免許を持っている大人２人なら、運転を交代しながらどこまでも走っていけそうな可能性を感じられた。

パッセンジャーと一緒に操る感覚が面白い！

バイクとは異なる操作感を掴んで乗ろう

バイクライフに新しいワクワクをもたらしてくれそうなＵｅｄｉだが、乗り味は一般的なバイクとかなり違うので、慣れるまではちょっと注意が必要だ。乗り方については90ページにまとめてるので、サイドカーに乗ってみたい人は参考にしてほしい。

基本的にライダーが車体をコントロールするタンデムと異なり、サイドカーではライダーとパッセンジャーが息を合わせて体重移動することで、よりスムーズなコーナリングが可能になる。

体重移動に加えてマスターしたいのが、アクセルワークでの操舵だ。アクセルを戻すと車体側にエンジンブレーキがかかるがサイドカーにはそれがないため、慣性の法則が働き「アクセルを開けると左へ進み、戻すと右へ進む」挙動をする。慣れてくると、この特性を利用して自由自在に車体を操れるそうだ。ちなみにＵｅｄｉは車両が小さい分、こういったサイドカーらしい特性が強く出る。Ｕｅｄｉの運転をマスターすれば、より大きなサイドカーも簡単に運転できるというから楽しみだ。一度味わうとやみつきになるというサイドカーの世界。あなたもぜひ足を踏み入れてみては。

友人同士やカップルにもオススメ！

大人同士で乗っても楽しいサイドカー。試乗を挑戦した宮内くんと斉藤さんは、ともにサイドカー初体験。宮内くんは「普通のバイクと曲がり方が違うので最初は戸惑いました。サイドカーもきっちりサスが効いていて乗り心地がいいです。これでキャンプや釣りなどに行ってみたい」、斉藤さんは「サイドカーは足が伸ばせて楽。運転には慣れが必要だけど乗りこなせたら楽しそう。広いところで練習してみたい！」と、興味津々だった。

設備充実でとってもきれい！富士山の絶景も楽しめる

朝霧高原にある食のテーマパークに併設されたオートキャンプ場。フラットな草地サイトで設営しやすい。敷地内に点在する特産品の工房で地元食材が調達できるのも魅力！

取材協力
あさぎりフードパークオートキャンプ場
静岡県富士宮市根原449-11
☎0544-29-5101

MC_086-089_サイ□ カー_Uedi.indd 88-89
2022/07/21 15:32

無骨なスタイルで人気上昇中
URAL ウラル

冒険野郎 御用達

　軍用車のような無骨なスタイリングと、50年以上の歴史、そして最新技術が融合したサイドカーだ。パワートレーンは、BMWを思わせる水平対向2気筒OHC。19インチのホイールとタイヤ、そして側車側も駆動する2WDシステムが高い走破性を発揮する。フロントのスイングアーム形状も独特だ。2022年型では大幅な改良を受けて最新の排ガス規制となるユーロ5にも適合。ブレーキやサスペンション、センタースタンドにも手が加えられ、より扱いやすく進化した！

Gear Up
●270万500円

●空冷の水平対向2気筒エンジンは749cm3。最高出力は41馬力、最大トルクは5.81kgf･m

●全幅は162㎝。変速機は前進4段、後進1段。サイドカーホイールも駆動する

●側車の後部にあるトランクは、容量82ℓを確保する

三輪なら「トライク」という選択肢もある

　同じスリーホイーラーでも、サイドカーのように側車を付けるのではなく、後輪を2輪仕様にしたのがトライクだ。前輪を2輪にしたタイプをリバーストライクと呼ぶこともある。トライクの魅力は、なんと言っても高い安定性とオープンエアの爽快な走りを両立している点。操縦性はバイクとはまったく異なり、バンクさせずにハンドルを切って曲がっていく。二輪の免許ではなく、四輪の免許で運転できるトライクが多いのも特徴だ。

ハーレーダビッドソン フリーウィーラー
●429万8800円〜

●シンプルなスタイリングのトライク。エイプハンガーハンドルで操作しやすい。1868ccエンジンは88馬力、16.21kgf・mを発揮。車両重量は507kg

ハーレーダビッドソン トライグライドウルトラ
●533万2800円〜

●防風性能の高いフェアリングやパッセンジャーもゆったり座れるソファのようなシート＆トップボックスを装備。ロングツーリング向けのトライクだ

shop紹介 **サッシュ**

関西方面でサイドカー、トライクが欲しいなら！

　京都にあるサイドカー、トライクに強いショップと言えば、サッシュだ。常時50台以上のトライクやサイドカーを展示。CAN-AMの正規ディーラーでもある。関西方面のトライク＆サイドカーファンの強い味方だ。

京都市伏見区中島秋ノ山町111　☎075-612-2288

●900cc３気筒を搭載する、前2輪のリバーストライク。乗車位置も低くスピード感はかなりのもの。タイヤ は16インチ。スポーティな走りを楽しめる

BRP CAN-AM　ライカースポーツ　●197万3400円

Uediの側車には何cmのパッセンジャーが乗れるのか？

175㎝くらいなら乗れます

　小さなサイドカー、ウェディ。果たしてどれくらいの体格なら側車部分に乗れるのか？　取材陣で最も身長の高い183㎝の編集長・太田は、残念ながら足が入らず体育座り状態に。もう一人の男性、キャンプ仲間の宮内くんは身長175㎝。写真だと体育座りだが、実際はどうにか足を伸ばせた。しかし、少し窮屈そうである。同じくキャンプ仲間の斉藤さんは身長160㎝で、だいぶ余裕が感じられる。検証の結果、身長170㎝前後であればちゃんと座れることが分かった。

約180cm

約160cm

●身長183㎝の太田は無理だったが、175㎝なら足を伸ばして着座できた。テストした宮内君はかなり体格のいい男性なので窮屈そうだったが、普通体型の175㎝ならもう少し余裕がありそうだ。170㎝までだと本当に快適で、ロングツーリングも気持ちよく楽しめる。子供やペットと一緒に旅をするのにもちょうど良さそうだ

サイドカーの運転、二輪とはどう違う？

アクセルワークと体重移動が重要です

　サイドカーの運転は、バイクとは大きく異なる。バイクに慣れているとつい同じように操作してしまうが、それだとうまく操れない。まずサイドカーはバンクしない。クルマのようにハンドルを切って曲がっていく。一般的に駆動するのは本体側の車輪だけなので、加速すると側車側に、アクセルを戻すと本体側に舵が切られる。リヤブレーキは側車側と連動しているので、減速はリヤブレーキがメインだ。また、側車側への旋回では、遠心力で側車が浮きやすい。体重移動するか、うまくアクセルを操作すれば浮き上がりを抑え込めるという。体重移動とアクセルワークを極め、パッセンジャーと一体になって操れば、バイクとは違う爽快なコーナリング感覚が味わえるのだ。

●左に船がある場合、左コーナーで船が浮き上がってしまうのだ。上級者はそのままバランスを取って旋回するらしい……

●パッセンジャーも体重移動することで、より旋回しやすくなる

Uediは125ccでも高速道路を走れる？

ルール上は走れますが、お薦めはしません

　前述したように、ウェディは排気量125ccだが高速道路を走れる。車幅が1290㎜なので、原付二種ではなく「軽二輪（車検なし）」の扱いとなるからだ。最高速度は70㎞ /h以上出るものの、どんな状況でもその速度をキープできるかというと難しい。例えば上り坂ではギヤを落とさなければならない状況もあるだろう。ほかのクルマが飛ばしているなかを、50〜60㎞ /hで走るのは危険だし、最低速度違反で取り締まられる可能性もある。もし高速道路や自動車専用道路を走る際は、注意が必要だ。

●ピンクナンバーのはずのハンターカブも、サイドカーになると白ナンバーに

取材協力 **オートスタッフ末広**

蓄積されたノウハウと高い技術力で、オリジナルのサイドカー＆トライクも制作

千葉県千葉市中央区末広5-11-14
☎043-261-0184
営業時間●9:00 〜 19:00
定休日●木曜日、第3水曜日

　千葉県千葉市に構えるオートスタッフ末広は、一見普通のバイク屋さんだが、その技術はハッキリ言って普通ではない。オリジナルの電動バイク「zecoo」や、サイドカー、トライクなどを開発、製作する凄腕カスタムショップなのだ。もちろんバイクのカスタムも得意。サイドカーレースでの優勝経験もあり、サイドカーのどんな相談にも乗ってくれる。今後は、スーパーカブやダックスのサイドカーも面白いかも……と構想を練っているとか。

オリジナルサイドカー　エマージ
●独自の一体型フレームに走行・制動・操縦装置を配置して、そこにバイク本体を載せるシステムを開発。サイドカーに改造しにくいバイクも、サイドカー化できるという

オリジナルサイドカーNSS
●エマージを進化させたアッパーモデル。ツナグデザインの代表。根津考太氏がデザイン。全幅は1.9mを超えるという、パッセンジャーファーストのラグジュアリーサイドカーだ

ウロボロス
●前2輪のリバーストライクでメイドインジャパンのハンドメイド。普通自動車免許で走行可能。他に類を見ないデザインと、クルマにはない爽快感、バイクにはない安定感が魅力

MC_090-091_サイ カー_Uedi-後半.indd 全ページ　2022/07/21 15:37